

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0086
施設名	おともだち保育園
施設所在地	世田谷区下馬2-21-11
法人名	社会福祉法人日本フレンズ奉仕団

1. 活動のテーマ

<テーマ>

感触と動き

<テーマの設定理由>

夏季に室内で水などを入れた感触あそびのマットで遊ぶと、興味をもって遊んでいたり、一人ひとりの関わり方の違いが見られたりした。感触に対する子どもの反応、感触の変化との関係性についてテーマとした。0歳児テラスを人工芝に張り替えることとなったため、感触が違う場所での動きの部分にも着目していく。

2. 活動スケジュール

- ①7月～8月：感触マットや絵の具での遊び
- ②9月～10月：戸外で自然物の感触
- ③11月～12月：ふれあい遊びの心地よさ
- ④3月：芝生(人口)の感触

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①ジップロック、水、花紙、ジェル、ラメ・グリッター、絵の具／環境設定：一定の期間、保育室内の同場所に常設をする
- ②誤飲に気を付けながら、園庭で砂や泥に触れる
- ③保育者や身近なおとなとのふれあい遊びの機会を設ける
- ④0歳児テラスにて裸足で遊ぶ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ①感触マットでの遊び
- ②砂遊び、泥遊び
- ③日常生活や行事での触れ合い遊び
- ④人工芝テラスでの遊び

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ①マットの上で寝転がる、座る、歩く、踏みしめるなどの動作、体の位置の変化が見られた。指先で触る、腕をつける、足先で触れる等の感触を確かめる姿が見られた。冷感を味わうような表情でほほをつける様子もある。
- ②園庭で砂遊びや泥遊びを通して、砂や泥の感触を確かめる。指先で小さく砂をつまむ、手の平いっぱいで泥を叩く、泥を腕に塗り付けてみる、足で踏みしめる等、体の中でも使う部位を変える様子が見られた。泥に関しては、慣れない感触に初めのうちは抵抗感を示す子どももいる。どのような感触への抵抗感が考えられるのか考察。
- ③「いっぽんばしこちよこちょ」などのふれあい遊びでは、体の部位の感じ方に個人差が見られる。くすぐったい感覚で体を起こす、よじる、手足をばたつかせるなどのポジションの変化と、それぞれの反応の違いに繋がっている。又、保育者の表情の違いによる子どもの表情の変化もある。
- ④人工芝の感触に芝面に抱っこから降りられない子の姿が見られた。少しづつ保育者と共に慣れてくると、座って手で触るなどの感触を確かめる姿が見られた。歩く、ハイハイする、座ったまま動くなど、様々な体勢や体の動きで遊び、慣れてくると動き方に速さが加わった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

感触に慣れないうちには、手先などの体の一部分で試していることもあり、慎重な動きで速さがゆっくりとしている。回数を重ねるうちに、保育者の声掛けや援助によって、その物との関わりがより増え、興味を持って楽しむ姿が見られるようになっていた。物との関係性を育むために、保育者が見守る中で自らの試す行動を保障されている環境や、安心感が与えられる仲介役としての保育者が必要であること。子ども達がふれあい遊びで見せていました表情に対して、保育者が穏やかにゆったりと共感性高く応じていくことの大切さに、改めて気付いた。